

# 自彊前進

NO. 15 平成30年1月10日(水)  
附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

## 平成29年度3学期始業式校長講話

校長 柳沼 宏寿

あけましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、みなさんの元気な姿を見ることができて大変嬉しく思います。「一年の計は元旦にあり」と申しますが、今年一年間の目標をしっかりと掲げることができたでしょうか。三学期は学年としての締めくくりであると同時に、次のステージへ繋がる大切な学期です。悔いのない一年にするためにも、明確に目標イメージを持って臨んでいただきたいと思います。

さて、先週、プロ野球の名将星野仙一さんの訃報に驚かれた方も多いと思います。ピッチャーとして、また監督として、常に闘志を前面に押し出す積極的な姿勢や人情味あふれたリーダーシップには学ぶことの多い方でした。星野さんの様々な経歴の中でも、まず思い起こされるのは中日や阪神の監督時代もさることながら楽天の監督としての活躍です。監督就任の翌年に東日本大震災が起きましたが、選手と共に何度も被災地に赴いて被災者の方々を励してくれました。そして三年目、楽天を日本一に導き、東北の人々に大きな喜びと勇気を与えてくれた時には、心から「ありがとう」という気持ちが込み上げてきたものです。

あの甚大な被害をもたらした東日本大震災も、発生から今年で7年目が経とうとしています。しかし、これまでの年月をかけてもなお、被災地の復興はまだ進んでいない所が多く、被災された方々の生活や精神面に至っては、私たちの想像の及ばない課題が山積しているのが実情です。私自身、福島に実家があって、半壊した家を修復するために時折帰省していましたが、その度に現地の方々の疲弊した様子を目にし、時の流れとともに県外との意識のずれが大きくなっていくのを感じていましたので、少しでも復興の力になりたいと願いつつ、その難しさに歯がゆい思いをしてきました。今は、自分にできることとして、造形的な表現活動を通したワークショップやイベントを細々と企画し継続しています。

ところで、2年生は二学期に小林由紀子先生(養護教諭)から「レジリエンス」についての授業を受けたことを伺いました。その時みなさんが記載した学習カードを何枚か見せていただきましたが、「レジリエンス」という概念について、それぞれが自分ごととして捉え、様々な視点から実践のアイデアを発想していたことに感心させられました。実は、私はこの「レジリエンス」という考え方を震災後、



福島の被災地の学校での取り組みに見てきました。私が企画している映画祭に毎年出品してくる小学校のスローガンに掲げられていたのです。「レジリエンス」とは、「弾力」「回復力」という意味で、傷ついて弱ってしまった心を本来の元気な状態へ復活させることを意図しています。被災者の中には、家族や友人を失うなど過酷で辛い経験をし、数年が経過した今でも PTSD(心的外傷後ストレス障害)で苦しんでいる人がいます。人の心は、そのように繊細なものです。しかしながら、同時にしなやかさも持っていて、必ず元のように回復するという可能性を「レジリエンス」は表しています。

見渡せば、人類全体も直線的に成長すると信じられた科学技術や高度経済の反動として、環境破壊や国際紛争を噴出させていますが、一度傷ついた自然環境や生態系は元に戻るのには何百年もかかってしまいます。また、戦争からの帰還兵がバーンアウト症候群に陥って社会に復帰できないでいるという事例もあります。このような事態もまた、私たちに地球環境や人間の心というもの本来デリケートで傷つきやすい存在であることを教えてくれています。それを「ヴァルネラビリティ(脆弱性)」とって、21世紀を迎えた現在、あらゆる領域で現代的課題として取り組まれており、そこからの回復として「レジリエンス」という概念に期待がかかってきたという経緯があります。

そのような意味で、現代社会の様々な場面に見られる脆弱性に対し、どのように「レジリエンス」を可能にしていくかが、これからの非常に重要な課題でもあるわけです。特に、グローバル化が進む社会において格差や人種差別などの問題が生じていますが、異なった文化の考え方をどのように尊重し共生していくのか、また、紛争や震災のショックで落ち込み苦しんでいる人々の心をどのように回復させ、本来の自分らしさを取り戻してもらおうのか、他者の思いを推し量りつつ、創造的な思考で世の中を牽引していく資質が必要な時代であるということです。このような考え方は、マクロな視点では持続可能な社会の実現にとって、ミクロな視点では自分自身の中にもある弱点を克服し自己実現を果たすために極めて重要なものです。

この三学期、1年生は「東京班別学習」で社会の第一線において活躍している方々との学びに、2年生は「台湾の旅」で国際交流を通じた学びに臨むこととなります。これまで学んだことを最大限に発揮して自分のこれからの生き方に繋げて行ってください。3年生は、いよいよ卒業、そして受験という、人生における大きな門出が控えています。この附属新潟中学校という環境は、いうまでもなく、志を高く持った友人と先生方に恵まれた素晴らしい環境です。この場で学べることに感謝の気持ちを持ち、残りわずかとなった中学校生活を有意義に過ごしていただければと思います。

記念すべき本校の創立70周年最後の学期です。みなさんは、附属中生として、その活躍が多くの人々に希望をもたらす存在でもあります。ぜひ有終の美を飾ってください。